

# 朝日新聞

2007年(平成19年)

10月2日

火曜日

アサヒコム大阪

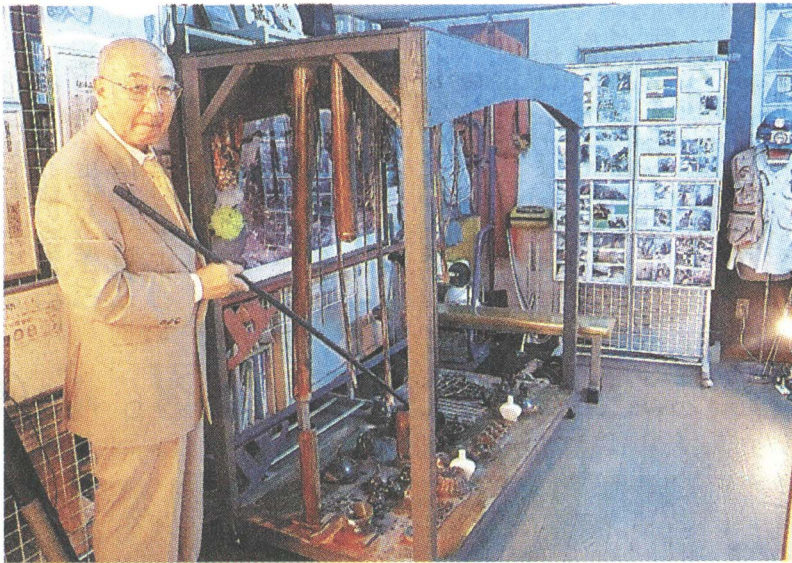
<http://mytown.asahi.com/osa-ka/>  
インターネットでも府内情報を

## 洞窟教授空き家に現る

世界各地の洞窟(ほく)研究を続ける大阪経済法科大の沢勲教授(69)が、大阪市西淀川区の空き家に「洞窟」を再現し、子どもたちに開放している。1000円ショップで買った陶器やかご、ペットボトルなどを使い、2年近くかけて作り上げた。「ロマンあふれる深い地底の世界をもっと知ってほしい」との思いがこもる。

(尾崎千裕)

### 大阪経済法科大の沢勲さん



① 沢勲さんが手作りした洞窟ハウス。青やオレンジなど照明にも工夫を凝らし、地底の雰囲気を感じさせている。② 洞窟横にある「溶岩プール」。水を循環させると、左側の滝から実際に水が流れる。いずれも大阪市西淀川区で

沢教授が初めて洞窟に入ったのは、小学1年生の時。たいまつを手に歩き、神秘的な世界に魅了された。大学では半導体の研究をしていたが、洞窟での感動が忘れられず、40年前から国内をはじめ韓国、中国など7カ国、約300カ所の洞窟を調査してきた。04年には新築した自宅の床下に穴を掘り、世界で集めた溶岩サンプルを展示。自ら穴に入って洞窟気分を味わったり、希望者に見せたり

## 地底の世界 模型で再現

だが、洞窟の成り立ちなどをきちんと説明できる模型をつくりたいとの思いが募り、今回は、自宅向かいに残る旧宅の1階と階段下を改造。鉄製の枠を洞窟に見立て、花瓶やペットボトル、土鈴を張り付けてペンキで溶岩らしい色に塗り「つらら石」や「石柱」のようにした。

向かいには、浴槽に水をため周囲に滝の絵を描いた溶岩プールを配置。さらに、赤く光るカラーコーンを使って洞窟ができる過程を説明する噴火口も手作りした。ほかにも、各国の岩石や写真を展示している。

沢教授は「洞窟に触れることで、子どもたちが知らぬ世界に興味を持ち、自分の夢を探すきっかけになれば」と話している。見学はファクス(06・6471・6686)で事前に申し込む。

